

## 現計画の検証

### 1 実績（R元～R4年度）

#### （1）みんなで築く「あわ文化」 **県民主役**

計画初年度（R元年度）は、県民だれもが文化芸術活動へ参加する取組が順調に推進されていたが、新型コロナの感染拡大により、県民主役の文化活動の場は大きく減少した。（「はぐくみコンサート」「とくしま音楽祭」R2,3年度中止。「県民文化祭」R2年度中止。）障がいの有無にかかわらず、多様な文化活動の展開については、障がい者の発表の機会の場創出に取り組んできた。

#### （2）根付き、育てる「人材・才能」 **担い手育成**

「あわ文化」の発展のために貢献した方や、今後一層の活躍を期待される方への顕彰を実施してきた。

新型コロナの感染拡大により、若い世代を対象にしたワークショップ等の開催は中止になった。イベント等の中止により文化芸術活動の自粛が余儀なくされた中、県内中高大学生をはじめとするアマチュア演奏者を対象に、プロの演奏家によるオンラインの演奏指導を実施した。

#### （3）文化の力で「まちづくり」 **まちづくりの推進**

県民の文化活動を促進する支援として、文化団体や市町村が実施する次世代後継者の育成や、あわ文化の可能性を切り拓く新規性の高い活動などに、補助金を交付した。

新型コロナの感染拡大により、県民が歴史文化に触れ親しむ各種講座の中止が相次いだ。クラウドファンディングを活用し、R元年度は遍路道の補修や遍路小屋にwi-fiを設置、R4年度は、スポーツ振興課と連携し、徳島の文化も楽しめるイベントを実施した。

#### （4）文化と経済の「好循環」 **経済・産業の活性化**

県立博物館Webサイトの多言語化表示や、県立阿波十郎兵衛屋敷での公演時に太夫の語りに合わせた翻訳を表示するシステムを構築した。

徳島市中心部から吉野川を横断して阿波十郎兵衛屋敷等の文化観光施設へ向かう「水上タクシー」を運航。徳島の文化資源（遊山箱、人形浄瑠璃公演、勝瑞城跡等）と水上タクシーを連携したツアーを開催した。

#### （5）「あわ文化」ブランドの創出 **ブランドの発信強化**

徳島県の観光情報サイト「阿波ナビ」のアクセス件数は、タイムリーにニーズに即した情報の発信を行ったことで、目標を大きく上回った。

「阿波人形浄瑠璃」「阿波おどり」の海外公演、またコロナ禍においては、オンラインでの配信を実施し、認知度向上及び魅力発信に努めた。

ウクライナの国立歴史公文書館へ、古文書の修復紙として評価の高い阿波和紙を提供し、文化的側面から困難な状況にあるウクライナを支援すると共に、世界に誇りうる文化資源である阿波和紙の発信を行った。

## 2 評価

計画期間中のこの4年間において、新型コロナウイルスの影響は甚大であり、計画の進捗が芳しくなかったことは否めない。人々の行動自粛が余儀なくされ県民が文化活動に参加する機会が減少し、文化芸術活動は縮小・停滞した。その一方で、デジタル技術を活用したオンライン配信などが当たり前となり、国内のみならず海外に向けても広く発信が可能になり、コロナがあったからこそ、進展が見られた点もある。

コロナの影響を大きく受けながらも、その時にできる施策を工夫して実施してきた。

### 参考数値

#### ○各施設の利用者数

##### ・あわぎんホール

2018 (H30) 年度 349,248人 → 2020 (R2) 年度 48,030人 → 2022 (R4) 年度 225,084人

##### ・文学書道館

2018 (H30) 年度 48,394人 → 2020 (R2) 年度 25,691人 → 2022 (R4) 年度 41,154人

##### ・阿波十郎兵衛屋敷

2018 (H30) 年度 24,926人 → 2020 (R2) 年度 8,565人 → 2022 (R4) 年度 15,144人